

昭和二十五年七月三十一日受領
答 弁 第 四 四 号

(質問の 四四)

内閣衆質第四八号

昭和二十五年七月三十一日

内閣総理大臣 吉田 茂

衆議院議長 幣原喜重郎殿

衆議院議員横田甚田太郎君提出運輸諸車両に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員横田甚太郎君提出運輸諸車両に関する質問に対する答弁書

(一)

昭和二十四年度末私鉄客貨車現在両数調

車種		種別	両数	摘	要
客車	電動客車		七、七六三		
	附隨車		一、一四〇		
	客車		九六一		
	内燃客車		二二八		
計		一〇、〇八二			
貨車	電動貨車		二六九 ^兩		
	有蓋		三、二二二		
	無蓋		七、七四七		
	計		一一、二二八		

昭和二十四年度私鉄客車新造両数

車種	種別	両数	摘
客車	電動客車	七一 <small>兩</small>	一兩当り三〇〇万円—七〇〇万円
	制御客車	四九	" 二〇〇万円—三〇〇万円
	客車	一〇	" "
	内燃動車	一	" 二〇〇万円程度
計		一三一	

要

昭和二十四年度末国鉄客貨車現在両数調

車種	種別	両数	摘
貨車	軽便車	二一〇 <small>兩</small>	
	有蓋車	四七、五三五	
	無蓋車	五九、三二八	
	タンク車	四一四	
	準貨車	一、二五八	
計		一〇八、七四五	

要

客電車	
一等車	一八
二等車	五二三
三等車	九、二四四
寢台車	一八五
軽便車	一九
電車	二、四八二
その他	一、四一一
計	一三、八八二

1 等級を異にする合造車は、定員の多い車種に又寢台車との合造車は寢台車に計上した。
 2 郵便、荷物合造車は、その等級の客車数に計上した。
 3 その他は、職用車、郵便荷物車等をいう。

国鉄の昭和二十四年四月から二十五年六月末までの客車新造、改造両数調

種別	新製		改造	
	両数	一両当り費額	両数	一両当り費額
一等車	一	一	一	一
二等車	一	一	一	一
三等車	一一九	三、九一七、六八〇	三〇八	(約二、〇〇〇、〇〇〇)
計	一一九	一	三三八	(八四)

一等寝台車	一二	八、一三二、三六五	—
二等寝台車	—	—	三
電 車	一五三	五、八八〇、〇〇〇	—
計	一六五	一四、〇一二、三六五	三

(注) 1 ()内数字は、二十五年度的実績で再掲とす。

2 一両当り費額は、平均値にして、用品割掛費を含む実績費額を示す。

(二) 日本国内登録实在車両数は三十一万二千八百台で、種類別、所有者別にすれば左表の通りである。

(昭和二十四年十二月末現在)

(種額別)	種類別	車両数	備 考
貨物	二二三、〇〇七	内 けん引車 被けん引車	一、一〇四 六、一二六
乗合	一七、一七四	内 けん引車 被けん引車	二九一 三三九

(所有者別)

所有者別	車両数	備考
乗用	六〇、九〇〇	内 三二輪車 二、三、五四八 一、八〇四
その他	一〇、九二七	内 消防車 救急車等
計	三二二、〇〇八	
所有者別	車両数	備考
自家用	一八五、七八五	内 外国人使用車 約三、〇〇〇
官公用	二九、二七六	
営業用	七九、三九〇	
国鉄用	六、六三〇	
その他	一〇、九二七	内 消防車、救急車等
計	三二二、〇〇八	

自動車の種類別	業態別	番号標寸法 (MM)生地色	番号数字寸法 (MM)色	備	考
普通	家用	高さ 160× 幅 白	高さ 90× 幅 50 黒		番号数字の頭には東京都におけるもの頭文字を冠す。
	事業用	160× 黒	90×50 白		
	小	128× 128×	72×40 72×40	幅10MMの赤色の枠を附す	
軽	家用	90× 90×	45×35 45×35	幅7MMの赤色の枠を附す	
	事業用	90× 90×	45×35 45×35		
特		160×	90×50 90×50		
拂下車用		(6 ¹ / ₄ "") (16 ¹ / ₂ ")	90×50 (4)×		
	臨時運轉用	175× 白	90×50 黒	幅30MMの赤色の斜線を附す	
臨時運轉用(軽)		110×	45×35	幅20MMの赤色の斜線を附す	
使用の回送用		150×295	72×40	第1位の数字は所管陸運局を示す	

(三) 本件については本府より目上調査中であります。